

- 今号の目次
1. 2011年度行事のお知らせ
 2. 学会4賞募集
 3. 『国際公共経済研究』第22号論文募集
 4. 研究大会・学会賞報告
 5. 事務局から

1. 2011年度行事のお知らせ

1. 研究会（3月26日：東洋大学）の発表募集

本学会では、一昨年から「修士論文賞」、「奨励賞」を設けて、大学院生の研究奨励を行っています。昨年度に引き続き、若手研究者主体の研究会を以下の要領で開催します。研究会での発表を募りますので、奮ってご応募ください。

日時：2011年3月26日（土）13時～17時

会場：東洋大学白山キャンパス5号館5201教室（東京都文京区白山5丁目28-20）

地下鉄三田線「白山」駅より徒歩5分、地下鉄南北線「本駒込」駅より徒歩5分

応募資格：本学会員の大学院生（修士・博士課程）、若手の研究者（学会発表等の経験が比較的少ない方）
発表を希望する方は、①所属、②氏名、③テーマ、④日本語のキーワード（5語程度）、⑤日本語要旨（5行程度）を、**2011年3月5日（土）までに事務局にメールでお送りください。**発表の可否について、事務局で簡単な事前審査を行い、1週間以内にご連絡します。

フルペーパーの事前送付は必要ありません。詳細は事務局にお問い合わせください。

2. 第2回社会的経済コンファレンス

2007年にカナダの社会的経済ハブからの提案が契機となって大成功のうちにスタートしたCIRIECの国際社会的経済コンファレンスは、第2回を中部スウェーデン・エステルズンドというまさに社会的経済を軸に地域発展を遂げている都市で開催され、新たな成功を得ることが出来ました。

その記憶もさめやらぬうちに、今度はスペイン・バリャドリッドにて第3回社会的経済コンファレンスが開催されることになりました。論文報告の応募も地元スペインをはじめとするヨーロッパはもとより、スペインには関係の深い南米、アジア、北米など世界各国から予想を超える量と質の報告応募がありましたが、なんとかセッション報告とポスター報告の選考を終え、コンファレンスでの充実したコミュニケーションが大いに期待されるところです。

CIRIEC Japan 会員からは、現在確認できるところでは3名、牧野松代（兵庫県立大）、石塚秀雄（生協総合研究所）、今村肇（東洋大）が報告する予定となっております。

テーマは「社会的経済、新しい持続的経済発展モデルを支える基盤」で、その下に4つのテーマが設定されています。

毎回、このコンファレンスでは多くの新しい研究の出会いが実現し、その後の研究ネットワークの拡大につながっております。どうぞ、オンサイトでのリアルなコミュニケーションにぜひともご参加下さい。日本からの多くの研究者、実務家、行政・政策担当者の方々のご参加を期待申し上げます。

日時：2011年4月6日～8日

開催地：スペイン バリャドリッド

テーマ：The Social Economy, prop of a new model of sustainable economic development.

The Congress has four main themes dealing with: social economy as a socio-economic agent in North and South countries; social economy as a vector of social and economic change; allies of Social Economy in a new sustainable economic development model, and the role of the States and international institutions in the face of Social Economy.

Web：<http://www.seconferenceciriec.es/>

すでに参加申し込みが始まっています。上記 Web ページからお申し込みください。みなさんの参加をお誘いします。

3. 研究会（6月18日：中央大学後楽園キャンパス）のお知らせ

今年度の大会は、12月3日～4日、中央大学で開催されます（3ページの5.を参照ください）。それに先立ち、6月18日、中央大学後楽園キャンパスで研究会を開催します。ご参加をお誘いします（事前申請は不要です）。

日程：2011年6月18日（土）午後

場所：中央大学後楽園キャンパス

（東京都文京区春日1丁目13-27）

地下鉄丸ノ内線・南北線「後楽園」駅より徒歩5分

地下鉄三田線・大江戸線「春日」駅より徒歩7分

テーマ・講演者：未定

（当日、学会の理事会も開催します）

詳細が決まり次第、学会 Web ページ、郵便でお知らせいたします。



4. 第11回公共部門経営に関する国際シンポジウムの後援

桜井徹先生（日本大）よりシンポジウムのお誘いがありました。多くの皆様のご参加をお願いします。

日時：2011年10月16日（日）・17日（月）

会場：日本大学商学部（東京都世田谷区砧）

テーマ：公共サービスの資金調達：租税、利用者負担それとも、その他の供給形態か？

※当学会が後援します。詳しい情報は学会の Web ページに掲載されています。

5. 第26回研究大会（12月3日・4日：中央大学多摩キャンパス）

今年の研究大会は、塩見英治実行委員長のもと中央大学で開催します。ぜひ日程を今から押さえておいていただきたく存じます。

日 程：2011年12月3日（土）・4日（日）

テーマ：未定

会 場：中央大学多摩キャンパス（東京都八王子市東中野742-1）

実行委員長：塩見英治（中央大）

実行委員：谷口洋志（中央大）、田中廣滋（中央大）、片桐正俊（中央大）、緒方俊雄（中央大）、岡田啓（東京都市大）、小熊仁（運輸調査局）、今村肇（東洋大）、野村宗訓（関西学院大）、衣笠達夫（追手門学院大）、松原聡（東洋大）、穴山悌三（東京電力）、和田尚久（東洋大）他

2. 「学会4賞」募集

本学会には、4つの学会賞があります。以下を参照の上、奮ってご応募ください。なお、審査の時間を確保するために、正式公募は4月に開始し、締め切りは賞により異なりますのでご注意ください。

なお、修士論文賞は、募集の日程等が変更になりました。2011年度に提出する修士論文が対象になります。このため、修士論文提出後に、それを12,000字にまとめたものを提出いただき審査いたします。論文提出締め切りは、2012年2月、発表・授賞は3月となります。提出先は、いずれも学会事務局です。

修士論文賞

修士論文を2011年度提出予定の院生の方に応募資格があります。応募者は学会員である必要はありませんが、学会員である指導教官の推薦が必要となります。対象者の方の応募を期待するとともに、修士論文を指導している学会員の先生方に、院生の応募を促していただきたいと存じます（推薦書はWebページにあります）。

優秀論文4点を顕彰し、3月の研究会での報告を認めます。さらにその研究会でのプレゼンテーション評価を加えて、最優秀論文1点を顕彰します。詳細は、7頁掲載の規定を参照ください。

応募資格：上記の通り

提出論文：本会執筆要領（8頁）による、12,000字のフルペーパー（修士論文をまとめたもの）

締め切り：2012年2月10日（金）消印有効

審査発表：2012年3月1日 事前論文審査の結果は、本人と指導教官に通知します。

奨励賞

大学院生（修士課程・博士課程）の学会発表について、数点に「奨励賞」を授与します。院生は、学会発表に際して、この賞への応募が前提になります。

応募資格：大学院修士課程・博士課程およびそれに準ずる者

提出論文：本会執筆要領（8頁）による12,000字のフルペーパー

締め切り：2011年8月31日（水）消印有効

審査発表：2011年10月15日 事前論文審査による学会報告の可否は、本人に通知します。

学会賞、尾上賞

例年通り、「学会賞」（若手の著作）、「尾上賞」（実績のある研究者の業績、学会活動への貢献）を募集しま

す。

対象期間：2009年7月1日～2011年6月30日までに公刊された会員による著書等

締め切り：2011年8月31日（水）消印有効

応募に際して、推薦書（自薦・他薦）、著書等を1冊お送り下さい。

3. 『国際公共経済研究』第22号論文募集

学会誌『国際公共経済研究』第22号（2011年9月発行予定）の投稿を募集します。査読論文、研究ノート、図書紹介、随筆等、広く募集しますので、奮ってご応募ください。

1. 査読付き論文（統一論題・自由論題）

当学会では、学会の水準向上のために、査読制度（レフェリー制度）を設けています。論文審査体制を組むために、事前の投稿登録をお願いしています（学会大会報告者も、事前登録をお願いします）。

事前登録

登録内容：①所属、②氏名、③テーマ、④キーワード（5語程度）、①から④を日・英文で、⑤英文要旨（5行程度）

締め切り：2011年3月5日（土）

提出論文

提出論文：本会執筆要領による、12,000字のフルペーパー

締め切り：2011年4月20日（水）

統一論題：「グローバル・サステナビリティの構築」

2. 研究ノート、図書紹介、随筆等

事前登録は、必要ありません。

提出原稿文字数：研究ノート 12,000字程度

図書紹介 1,500字程度（最大3,300字以内）

随筆等 適宜

締め切り：2011年4月20日（水）

*掲載にあたりましては、編集委員会が審査します。

4. 研究大会・学会賞報告

1. 第25回研究大会報告

第25回研究大会・理事会・総会・プレジディウム会議が無事に終了いたしました。会員の皆様に感謝の意を込めて報告いたします。立命館大学では、第5回研究大会「環境と成長～持続的発展における公共の役割～」の開催以来20年ぶりということで、新たな気持ちで取り組みました。

大会テーマを、2010年5月にベルリンで開催されましたCIRIEC第28回国際大会テーマ、“Public and social economy in the economic crisis: Support to sustainable development”と関連させて、「グローバル・サステ



イナビリティの構築」とし、CIRIEC の伝統と専門領域が持つ知見を踏まえつつ、今日の未曾有の経済危機への反省概念として公共と社会経済を持続可能な形でどのように発展をささえるかを国際公共経済学会でしっかりと受け止めて議論しようということになりました。幸い、今村肇副会長（CIRIEC 副会長）のご尽力で、プレジデウム会議を本大会に併せて開催していただくことになり、さらには研究大会の CIRIEC 報告のシンポジウムにも Bernard THIRTY 事務局長、Leona Detiege 名誉会長、オーストラリア、スペインのメンバーも参加され豪華な大会になりました。

本大会開催にあたり、実行委員会で多くの議論を重ね、大会の討議内容を充実するための研究会を重ねてまいりました。分科会報告：「低炭素社会に向けた技術と経済」（慈道裕治立命館大学特任教授）、「地球環境と政策調整」（北村裕明滋賀大学副学長）の座長のもとに活発な議論が行われました。この成果を



踏まえて、シンポジウムでは、コーディネーター：松原聡（東洋大学経済学部教授）、パネリスト：植田和弘（京都大学大学院経済学研究科教授）、慈道裕治（立命館大学特任教授）、松下和夫（京都大学大学院教授）、山田啓二（京都府知事）、岩間芳仁（日本経団連環境本部長）により「グローバル・サステナビリティの構築」の白熱した議論が展開されました。

シンポジウムに先立ち、記念講演として、立命館大学学長である川口清史会員より「グローバル・サステナビリティと私大戦略」の講演が行われました。川口学長は、本学会の理事であるばかりでなく、日本の学会が設立される前からの CIRIEC の会員としてもご活躍されておられます。大学経営という実践の場からの研究課題の発掘、そして国際的視点での状況分析を通じて私大戦略の重要性を指摘され、参加者からも多くの共感が得られました。



人類の歴史とは、「なんとか切り抜ける」という歴史であり、この「なんとか切り抜ける」という考え方が、場当たり式の発想ではなく、思想的・理論的・政策的・経済的・技術的にも意味を有し、かつホーリスティックな方法で対処することになることを要求されます。このコンセプトが「グローバル・サステナビリティ」であろうと考えます。もちろん、正確な定義がない状況下での議論は、なかなか着地点が見えないのも事実ですが、その構築に向けての旺盛な議論を開始し継続することが国際公共経済学会の使命であるとともに、未来への希望でもあると確信しております。

本大会では、未来に向けての真摯な議論が展開され、また、25周年大会という記念すべき大会の名にふさわしい大会だったと自負しております。

ここに、改めて会員各位、大会実行委員とりわけ、松原事務局長、今村肇副会長、加藤久明幹事のご尽力に謝意を表します。

国際公共経済学会会長 第 25 回研究大会実行委員長

立命館大学政策科学部教授 仲上 健一

2. 学会 4 賞の決定

学会 4 賞の審査委員会（塩見英治委員長）が開催され、理事会で承認を得ました。12 月 5 日の総会にて発表・表彰されました（敬称略）。

第 19 回学会賞

森 晶寿

『環境援助論：持続可能な発展目標実現の論理・戦略・評価』（有斐閣・2009年9月）

齊藤由里恵

『自治体間格差の経済分析』（関西学院大学出版会・2010年2月）



森 晶 寿

齊藤由里恵

第 11 回尾上賞

該当なし

第 2 回奨励賞

董 姝宏（滋賀大学大学院）

「2007年中国企業所得税改革の研究」

大屋敷啓輔（神戸大学大学院）

「ショッピングセンターの規模を決定する外生的要因の分析」

第 2 回修士論文賞（最優秀賞）

山田 航（兵庫県立大学大学院）

「日系人労働者の長期滞在化と就労行動の変化に関する経済社会分析」



董 姝宏

大屋敷啓輔

山田 航

5. 事務局から

1. 新入会員受付について

昨年度から、新入会員の受付方法が変わりました。本会 Web ページ上での登録も可能となりましたので、ぜひ新会員をお誘いください。

2. 2011 年度個人会費請求

当学会は、2010年12月1日より新年度に入りました。つきましては、2011年度（2010年12月1日～2011年11月30日）の個人会費8,000円を同封しました振込用紙で納入をお願いいたします。なお、2009年度、2010年度未納の方は、併せて納入をお願いいたします。

会費未納の会員は、学会誌受領、大会参加、連携団体の会合出席等の会員サービスを受けられないことがありますので、ご注意ください。

3. 名簿発行について

2011年度の名簿を作成します。会費の振込用紙に、名簿記載の住所、E-mail アドレスなどを記入していただけるようにしました。所属変更、News Letter 送付先住所に変更がある方は、事務局宛に6月末日までにお知らせください。

学会賞規定、および執筆要領

新しい修士論文賞規定（下線部が変更点）

- 1（目的）国際公共経済に関する大学院修士課程修士論文等を顕彰し、修士課程在籍者およびそれに準ずる者の学術的研究の奨励に資するため、国際公共経済学会修士論文賞を設け、優秀なる修士論文等を審査選定してこれに賞を授与し、その業績を顕彰する。なお、「修士論文等」および「修士課程在籍者に準ずる者」の詳細については、理事会で決定する。
- 2（表彰）受賞は毎年4点以内とする。受賞者には、毎年3月に開催される「研究会」での報告と、論文の学会誌掲載が認められ、優秀賞の賞状を授与する。さらにそのうち1点を、最優秀賞とし、賞状と記念品を授与する。
- 3（論文の応募資格）当該年度修士論文等の提出予定者
なお、修士論文賞応募者については、学会員であることは不要とするが、「学会員である指導教官の推薦書」を必要とする。
- 4（応募論文）応募論文は、修士論文を12,000字以内にまとめたフルペーパーとする。
- 5（公募）本賞は、毎年4月に公募を開始し、翌年2月10日に締め切る。公募の詳細については、審査委員会において決定する。
- 6（審査）審査委員会は、応募論文を審査し、3月1日までに4点以内の受賞作を決定し、発表する。また、この受賞作の研究会報告のプレゼンテーションを審査し、論文審査と総合して最優秀賞を決定する。
- 7（報告）研究会において審査委員長は、審査の経過を報告して、会長は対象作に賞を授与する。また、学会機関誌等でこれを公表する。

国際公共経済学会奨励賞規定

- 1（目的）国際公共経済に関する、大学院修士課程・博士課程在籍者およびそれに準ずる者の学術的研究の奨励に資するため、国際公共経済学会奨励賞を設け、該当会員による優秀なる論文、学会報告を審査選定してこれに賞を授与する。
- 2（表彰）受賞は、毎年数点以内として、賞状と記念品を授与する。
- 3（論文の応募資格）学会員であり、且つ、大学院修士課程・博士課程在籍者およびそれに準ずる者。但し、教員との共同発表は、認めない。また、「準ずる者」の詳細については、理事会に於いて定める。なお、大学院生等の学会報告には、この賞への応募を必要とする。
- 4（応募論文）応募論文は、12,000字以内のフルペーパーとする。
- 5（公募）本賞は、毎年4月に公募を開始し、8月31日に締め切る。公募の詳細については、審査委員会において決定する。
- 6（審査）審査委員会は、応募論文を事前審査するとともに、学会報告の可否を決定する。また、学会報告のプレゼンテーションを審査し、論文審査と総合して受賞作を決定する。
- 7（報告）会員総会において審査委員長は、審査の経過を報告し、会長は対象作に賞を授与する。また、学会機関誌等でこれを公表する。

国際公共経済学会論文執筆要領

- (1) 論文は、日本語または英文で書かれたものとして、図表を含め、12,000字以内とする。英語の場合は、日本語の枚数に換算する。表題・執筆者名・所属機関名・キーワード（5語程度）を日・英文で明記する。また、英文要旨（5行程度）を必ずつける。
- (2) 論文は、原則として横書きとし、ワープロ原稿とする。
- (3) 表記は、現代仮名遣い、常用漢字とする。
- (4) 本文に挿入する表・グラフ・地図等、文字以外の資料については、必ずそのまま原紙として使用できる状態で送付すること。挿入箇所を本文中に明示する。
- (5) 注は文中の肩に（注1）のように記し、論文末尾にまとめる。
- (6) 章・節は、1、2、1）、2）、（1）、（2）の記号による。
- (7) 引用文献は注記する。記載は以下の方法による。
 - 著書（単独）の場合 執筆者名、[出版年月]、『書名』、出版社、引用ページ
 - 著書（複数）の場合 執筆者名、[出版年月]、「論文名」、編集者名、『書名』、出版社、引用ページ
 - 論文の場合 執筆者名、[出版年月]、「論文名」、『雑誌名』、巻号、引用ページ
- (8) 提出：メール japan@ciriec.com（Wordあるいは一太郎。PDFは不可）
 - こちらから、概ね1週間以内に受領メールを出します。
 - 返信のない方は、事務局までお問い合わせください。

☆学会情報は、最新のものをWebページ <http://ciriec.com/> に掲載してありますので、適宜ご参照ください。